

第1回子ども・子育て会議 会議録（要点筆記）

開催日時	令和5年8月30日（水）午後2時～午後3時56分
開催場所	南砺市地域包括ケアセンター 多目的研修室
出席委員	・宇野 雪江 会長 ・高田 実 副会長 ・上坂 紀子 委員 ・上田 紀子 委員 ・大河原 晴子 委員 ・（大西正起委員）代理：山崎 賢治氏 ・川原 祐策 委員 ・齊藤 優華 委員 ・高瀬 見加子 委員 ・竹中 雅司 委員 ・竹中 友佳子 委員 ・谷戸 仁美 委員 ・曲師 政隆 委員 ・森田 清仁 委員 ・横山 一乃 委員 ・米倉 健太 委員 （16名）
欠席委員	・小原 香織 委員 ・藤井 一哉 委員 ・松嶋 裕治 委員 （3名）
事務局	・市川 孝弘（総合政策部長） ・三田 義弘（保健センター所長） ・溝口 早苗（こども課長） ・高堂 清美（こども課） ・道宗 学紀（こども課） ・河原 洋子（こども課） ・北島 みどり（こども課） ・江川 晃司（こども課）
傍聴人数	0名

1. 開会

事務局 委員の紹介・交代、新委員の委嘱、会議の成立・公開等について説明

2. 挨拶

副会長 会長が交代となったため、副会長が挨拶
体調管理が大変だと思うが、大人が元気でないと、こどもを守れない。
今までの会議で委員の方は、一生懸命考えていい意見を出していただいている。
南砺市のこどもを良い方向に向けて育てていきたい。

3. 会長の選出

事務局 委員交代により碓井会長が退任されたため、新たに会長を選出する必要がある。「南砺市子ども・子育て会議条例」第4条では、会長は、「委員の互選により定める」となっているが、いかが取り計らえばよいか。

A委員 事務局案があれば提案してほしい。

事務局 事務局案として、会長に現在 副会長の宇野 雪江 委員にお願いしたいと思うが、賛成の方は拍手をお願いしたい。

全委員 拍手

事務局 全委員の拍手により、会長を宇野 雪江 委員に決定する。
副会長の宇野委員が会長となったため、副会長を新たに選出する必要がある。いかが取り計らえばよいか。

A委員 こちら事務局案があれば提案してほしい。

事務局 事務局案として、副会長に高田 実 委員にお願いしたいと思うが、賛成の方は拍手をお願いしたい。

全委員 拍手

〈会長・副会長より就任挨拶〉

会長 副会長より会長に推薦いただきありがとうございます。主任児童委員として3期目で2期目から会議委員をしている。

南砺市の子育てについては本当に一生懸命されているのが分かるので、皆さんのよい意見で南砺市をよりよくしていければ嬉しい。よろしくをお願いします。

副会長 地域づくり協議会連合会の代表としてきた。

地域で育った子どもが、地域がよかった・楽しかったと思いつけてくれる地域を作ることが目標で、そのことが子どもたちが戻ってきてくれることにつながる。

微力ですがよろしくをお願いします。

4. 報告事項

- (1) 第2期南砺市子ども・子育て支援事業計画の位置づけと進行管理（点検・評価）資料1
- (2) 令和4年度 施策の展開 実施状況 資料2 参考資料
- (3) 令和4年度教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の実施状況 資料3
- (4) 令和4年度 南砺市総合計画事業 資料4
- (5) 令和5年度 教育・保育施設の利用定員と認可定員について 資料5

事務局から資料1～5によりまとめて説明

〈主な質疑、意見〉

B委員 放課後児童クラブは全小学校下にあるか。

→事務局 旧町部は全小学校下に設置。旧村部は地域主体のとやまっ子さんさん広場に運営補助を行っている。

C委員 地域子育て支援拠点事業の令和5年度の利用見込みは。

→事務局 コロナ禍では利用制限もあったことから低下。最近はコロナも5類となり、人数制限も行っていないため、利用は増加の傾向にある。

5. 協議事項

- (1) 令和5年度 特に重点的に実施している事業・取組について 資料6

事務局から資料6により説明

〈主な質疑、意見〉

D委員　こども家庭センターの設置について、虐待は児童相談所やこども課で対応してきたが、どう変わるのか。何が変わるのか。

→事務局　相談先が変わることはない。小さい子は保健センター、18歳まではこども課で対応していくことに変わり無く、窓口はどちらに行っても大丈夫。センターの設置で、情報を共有し、支援プランを立てていくことになる。

会長　医療的ケア児の受入体制の整備はいつ頃を目途にしているのか。

→事務局　令和6年度からの受入を目指して令和5年度に準備をしている。

E委員　こどもは経済的に負債と思っている立場。そもそも、こども・子育ての政策の目標は？どういった成果、何を期待しているのか。人口を増やして税収を増やす？若年層の転出をつなぎ止める？子どもにお金をかけても戻ってこない。やってる感を出してるだけでないか。どれだけの成果がでているのか。

→事務局　子ども・子育て支援事業計画は市総合計画に基づき事業を展開している。人口減少対策、子育てしやすい、子どもが健やかに育つなど、子どもも大人も幸福度の向上も目指している。人口減少対策として成果を出すことはなかなか難しい。これまでと違った視点も必要で、いろいろと検討している。

E委員　行政の責任者は市長で、14年もやっているが、無投票というところが問題。明石市は泉市長は選挙で結果を出している。南砺市はどうしたいのか。南砺市の方向性、10年先のビジョンが大切。

→事務局　考え方は色々あるが、4月のこども課の移管は国の動きでもあり、総合政策部の一丁目一番地は「人口対策」と考える。子ども政策の改善は使命である。人口といっても、総人口で議論してもダメで、合計特殊出生率が改善しても、人口回復は30年かかる。若者が育ち、もどり、働く場を作り、女性が活躍する場を作るなどターゲットを絞って舵を切ることが必要と考えている。明石市や奈義町にも学びつつ、プロジェクトチームを作り、少しずつ具体化するよう進めていきたい。

F委員　こども食堂事業について、「子どもたちが生まれ育った環境に左右されず」とか、「食事その他の生活環境が十分でない子ども」と書かれているが、対象を限った子どもに対しての事業しか補助はされないのか。誰でも対象としないとやる意味がないのではないのか。

→事務局　食に困っているといった対象の限定はなく、誰でも利用できる。

F委員　子どもの居場所づくり促進事業の方も「多世代交流や学習支援を目的とした」とあるが、これを目的としていないと補助の対象とならないのか。

→事務局　取り組んでいるところは地域づくり協議会が多く、補助事業のメニューとして多世代交流や学習支援ということで、地域で子どもを見守りたい取り組みを支援するもの。

- F委員 特に学習支援とかではなく、ただ遊び場の提供であっても補助の対象となるのか。
- 事務局 安心安全な居場所が基本。子どもの居場所づくり促進事業は取り組みをやってみようと
する地域づくり協議会等のスタートアップを支援するもので、子どもの体験教室等につな
がっていく形になることを期待している。
- F委員 居場所づくりに携わる方向けの研修や講座を行う予定はあるのか。見守りをする人の価値観
を押し付けている場合もあるため。
- 事務局 ファミサポ研修を紹介したり、新たな研修を検討していきたい。
- F委員 適応指導員の名称変更した方がいいのでは。
- G委員 なんとっ子まなびサポーター・適応指導員・スタディメイトの3つを合わせて今年から学習
支援員に名称変更しているのでは。
- 事務局 こども課から改めて確認し修正する。計画書にはこの名称で載っているが、会議等に出
す資料については正しい名称に変更していきたい。
- H委員 子ども3人、保・小・中いる。コドモンを保護者会で使えないか検討してほしい。
小中のテトルについても、PTAで使えないか検討してほしい。
テトルは出欠報告に対して学校から見ましたとの返信がないので心配、気になっている。
- I委員 コドモンの目的は、緊急時対応の情報の配信として情報を厳選している。保護者会から
の案内の配信の要望もあるが、一斉配信の数が増えすぎると、既読率が低下する可能性も
あるため、制限させていただいている。
- J委員 小学校でも検討中。ペーパーレスの観点からも全てをテトルで配信すれば…という意見
もあるが、祖父母が対応できるかという声もある。校長会で議論する予定である。
- 事務局 これまではシステム定着の段階であり、厳しいルールでやっているが、今後、保護者に
確実に伝えるべき内容を選択するなど相談・検討していきたい。
- K委員 子育て支援センター利用者の声について、土曜日の支援センターは福光児童館「きつずらん
ど」1か所ではかやっていないが、「おもちゃが少なく遊べない」と聞く。福光児童館のおもち
ゃの見直しをしてほしい。喜志麻保育園も午前中のみ支援センターをやっているが、意外と土
曜日に遊びに行くところがないので、お願いしたい。
- 事務局 毎月、子育て支援センターの会合を行っている。今、利用者アンケートを実施しており、
要望等についてできるところから順次改善をしていく。おもちゃについても検討してい
きたい。
- L委員 みんなの子育て講座について、昨年までは祖父母講座だったが、改編したことによる効果を
教えてほしい。現状・参加率などは。
- 事務局 今年度からは地域の方も対象に加え、声掛けをしている。まだ多くの方に参加いた
だけていないが、地域の方も巻き込んで社会全体で子育てしていけるよう講座を進めていき

い。

会長 民生委員もそこへ出ようという気持ちはある。

→事務局 民生委員・児童委員にも参加いただいている。

L委員 P11のNo.79保育園における外国人支援について、現在、福光青葉幼稚園にも外国籍の利用者がおり、教育委員会（中学校）のスタディメイトに支援してもらっているが、乳幼児期の子どもだけでなく保護者へのきめ細かな支援について、どう考えているか。支援する体制を整備してほしい。

→事務局 言葉が通じず保育上で困る事例が生じた場合には、友好交流協会と連携し、通訳の方や人材を探す等支援に努めていきたい。

M委員 認可外保育施設のことについて、資料に記載されていない。子どもについて一生懸命携わること共感し、移住されている人もいますので人口を増やすことにもつながっていると思っています。また、一時預かりでドイツから来た子もいます。外国人について、認可外保育施設が困った場合も対応してほしい。

医療ケア児の預かりについても、検討の際、認可外保育施設にも対応してほしい。

→事務局 こども・子育て支援新制度の対象となっていないため資料に出ていないが、市としては、等しく南砺市の子が利用する施設として、総合計画事業では認可外施設の利用料軽減を実施している。公立・私立の園長会にも参加・情報共有いただいているところであり、外国籍の対応についても認可・認可外に拘らず支援していきたい。

医療ケア児については、公立で受け入れるための協議をしておき、市としてのガイドラインを策定している。資料の情報提供をしていく。

(2) 令和5年度 こどもの権利推進に向けた取組について **資料7**

(3) 令和5年度 南砺市出産・子育て応援支援金について **資料8**

(4) 高校生通学支援金の創設 **資料9**

事務局から資料7～9によりそれぞれ説明 — 質疑・意見等なし —

6. その他

・第3期南砺市子ども・子育て支援事業計画について

事務局から当日配布資料により説明

・事務局から次回の会議について

来年の2月下旬から3月頃に第2回子ども・子育て会議を開催し、教育・保育施設の定員変更や、令和5年度及び令和6年度の事業の取組等について協議いただく予定

〈全体での主な質疑、意見〉

N委員 評価基準について、計画に対する数値の評価もあるが、親・こどもの満足度や育ちに役立つ評価も必要と考える。こどもの権利条例とも照らし合わせて、別々に作るのではなく、第3期計画は一緒に作ってほしい。

→事務局　こども基本法に基づきこども計画を策定するにあたり、ご意見を参考とさせていただく。
こどもの権利条例にそくしたものを策定していく。

○委員　知らない事業がたくさんあった。子育て世代なのに、有効に使えていない事業があることにも気づいた。必要な人に、必要な事業が届くようなシステムを構築してほしい。

南砺市は出ていく女性も多いが、子育て世帯にとっては選んでくれるいい街であると思う。子育て支援センターの利用についても、せっかくある場所・ある事業を知らずに困っている人がいると思うので、ぜひ有効に活用してもらえるようにしてほしい。

→事務局　前から議会等でもよく言われているが、南砺市の子育ての良さを知らない人が多い。課題としてしっかりと取り組んでいく。

P委員　実情に合わせて、目標値自体の見直しだとか、足りないところは何なのか具体的なものが見えてくるのではないか。「A B C」という基準ももう少し定量化すれば、より課題も見え、よい施策につながるのではないかと感じた。(No. 34 子育て支援センターの充実について目標と現状に大きな乖離)

→事務局　当初の計画(推計値)を策定してから社会が変わってきている。実情を踏まえて自己評価になっているが、次期計画で目標値等は実情に合わせて修正していきたい。

会長　子育て中の方、それぞれの立場で支える方で良い議論がされたと思う。有意義な時間だったと思う。次回もよろしくお願ひします。今日はありがとうございました。

7. 閉会

副会長　活発な審議をいただき、ご意見もたくさんいただいた。辛辣な意見もあったが、南砺市の子どもを思っていること。子どもは親の思い通りに育たない。子どもたちが、その時その時、健やかに明るく育ってほしい。そのために、親・地域・教育現場・行政が何ができるかを考える場があることが大切。

部長　市としても、子ども政策はそれなりの評価はいただいていたが、人口がどうか、外国人はどうか、医療ケア児の対応はどうかという横串を入れた時に、課題が出てくると思う。顕著になったのが、総合計画の市民意識調査を電子回答もできるようにしたことで、若い人の意見、生の声がダイレクトにどんどん入ってくるようになり、厳しい評価をいただいていると感じている。

こどもまんなか政策を進めていき、国は人口回復に 100 年かかるかもしれないが、南砺市は他地域からの流入でもっと早く回復するかもしれない。

いただいた意見を反映させながらスピード感を持って取り組みたい。

午後 3 時 5 6 分 終了